

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法概論		理学療法科/1年	2021/前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉元 雅晴(実務経験あり)
授業の概要				
リハビリテーション概論で学んだリハビリテーション理念や実態、評価、治療、障害特性について理学療法士はどのようにリハビリテーションを行っていくのか 理学療法士は理学療法を実際にどのように使っていくのかについて学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士とは?という問いかけに対して自分なりの答えを出せる ・各疾患におけるリハビリテーション、そこでの理学療法士の役割について答えることができる 				
回	テーマ	内容		
1	理学療法概論 総論	オリエンテーション 理学療法士とは		
2	障害学	障害総論		
3	高齢者のリハビリテーション	各論		
4	脳損傷のリハビリテーション	各論		
5	脊髄損傷のリハビリテーション	各論		
6	神経筋疾患のリハビリテーション	各論		
7	運動器疾患のリハビリテーション	各論		
8	呼吸器疾患のリハビリテーション	各論		
9	心血管系のリハビリテーション	各論		
10	肢体不自由児のリハビリテーション	各論		
11	発達障害児・者のリハビリテーション	各論		
12	担がん患者のリハビリテーション	各論		
13	精神障害の基礎事項	各論		
14	災害医学とリハビリテーション	各論		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版」栢森良二 医歯薬出版株式会社 配布資料		期末試験	100.0%	授業ごとに出る課題を期限内に提出することで課題点を与える。15回終了時に課題点で6割に届かなかったものは期末試験を受けること

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅰ（抄読）		理学療法科/2年	2021/前期	講義 （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉元雅晴（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士が研究を行うことの意味と目的から始まり、具体的な研究方法について学び、研究する前段階である研究計画書の作成までを行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士として研究する意義を学ぶことができる ・理学療法士が研究に使用する一般的な測定機器の概要と操作方法を理解できる ・後期の研究方法論Ⅱで研究するための研究計画書を作成できる 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 序章	研究方法論で学ぶことを理解する なぜ理学療法士が研究法を学ぶのかを理解する		
2	研究準備1 先行研究を調べる	先行研究の探し方、調べ方を学ぶ		
3	研究準備2 先行研究をまとめる	先行研究の整理の仕方を学ぶ		
4	研究準備3 アウトカムをイメージする	アウトカムを学ぶ		
5	研究企画1 研究デザインを考える	研究デザインを理解する PECO、PICOについて学ぶ		
6	研究企画2 研究デザインを例から考える	観察・調査研究、介入研究を理解する		
7	研究企画3 アウトカムの設定と測定方法を考える	アウトカムの設定と測定方法を理解する		
8	研究企画4 データ処理の方法1			
9	研究企画5 データ処理の方法2			
10	研究企画6 研究グループの構成、臨床的意義・実現性	研究グループをつくる		
11	研究企画7 スパイロメトリーの概要と操作説明	スパイロメトリーの概要と操作方法を理解する		
12	研究企画8 呼気ガス分析装置の概要と操作説明	呼気ガス分析装置の概要と操作方法を理解する		
13	研究企画9 重心動揺計の概要と操作説明	重心動揺計の概要と操作方法を理解する		
14	研究企画10 バイオデックスの概要と操作説明	バイオデックスの概要と操作方法を理解する		
15	研究企画11 研究計画書の作成	研究計画書を作成する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書 PT・OTのための臨床研究 はじめの一歩 羊土社 すぐできる！リハビリテーション統計 南江堂 参考図書		課題・レポート	100.0%	授業ごとにデイリ レポートを翌日の9 時までに作成し提 出すること 判定基準は 秀100点：授業内容

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅱ (方法)		理学療法科/2年	2021/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉元雅晴(実務経験あり)
授業の概要				
医療専門家である理学療法士にとって、対象者の問題や治療課題を明確にして、改善・解決する能力を高めることは最大の責務である。また、理学療法士自身および理学療法学の発展に資するためには、日々の業務の中から問題意識を明確にして、それを検証し、怪傑への努力が求められる。研究方法論を通じて、科学的思考に基づいて真理を追求する姿勢を育成する。そのためには、理学療法士が研究を行うことの意義と目的から始まり、具体的な研究方法について学び、研究する段階である「研究計画書」の作成までを行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 理学療法士として研究する意義を説明できる。 2. 研究論文を読み、抄録用紙に記載し、まとめることができる。 3. 抄読会を企画し、座長や口頭発表をすることができる。 4. 研究デザインの種類を説明でき、倫理規定にそった研究計画書を作成できる。				
回	テーマ	内容		
1	研究倫理指針とは	研究における倫理の意味づけを教授する。対象者・患者の倫理的配慮、利益相反について概説する。		
2	倫理指針①	実際に学会の倫理指針を確認しながら、条項の意味していることを明確に説明する。		
3	倫理指針②	ラット等の哺乳動物には動物倫理規定が低用されるが、通常の両生類は倫理規定はなが、背名の尊重に配慮する。		
4	抄読会(抄録用紙)	抄録用紙(規定用紙を配付)に記載し、発表する形態を提示する。		
5	抄読会(スライド)	文献抄読後に概要をpowerpointにまとめ、発表する形態を提示する。		
6	抄録用紙の記載①	各自が図書室の雑誌(研究論文)を読んで抄録用紙に記載する		
7	抄録用紙の記載②	各自が図書室の雑誌(研究論文)を読んで抄録用紙に記載する。		
8	抄読会(発表)	抄読した文献の発表を行う。(発表して資料の呈す津:電子データ)		
9	研究論文の執筆の仕方①	実際の研究内容を紹介し、研究論文の執筆の仕方を説明する。		
10	研究論文の執筆の仕方②	執筆の手順と執筆時の規定を確認する。		
11	研究計画書の作成の仕方	基本的な研究計画書の作成の仕方を教授する。		
12	研究計画書の作成①	各班で研究課題をきめ、研究領域の論文を収集する。		
13	研究計画書の作成②	研究方法の手順を票を作成する。		
14	研究計画書の作成③	「研究計画書」が倫理指針に沿った内容であることを確認し、倫理委員会に申請できる資料を作成する。提出は、紙面と電子データとする。		
15	研究ノートの記事まとめ	臨床介入試験・動物実験・培養細胞実験の経過を第三者にも説明できるように記載することの重要度で提示する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考図書 標準理学療法学 理学療法研究法 リハ研究の進め方・まとめ方		課題・レポート	100.0%	課題(抄録・研究計画書)は授業前を提出期限とし、提出期限を超過したものは受け取らない。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床運動学		理学療法科/3年	2021/前期	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)

授業の概要

バイオメカニクスから日常動作を考える
 観察と分析を通じて動作を学習する
 運動学の観点から正常歩行と異常歩行の違いについて知る
 異常歩行の分類を学ぶ
 疾患の特徴を調べ、なぜ異常歩行が起こるのかを調べる
 【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

日常動作をバイオメカニクスの視点が考えることができる
 観察、分析を通じ、動作を考えることができる
 運動学の観点から正常な歩行動作と異常な歩行動作の違いを理解できる
 異常歩行の分類を知り、模倣することができる
 疾患の特徴を知り、なぜ異常歩行が起こるかを調べ、まとめることができる
 疾患の特徴を知り、立ち上がり動作、起き上がり動作の異常動作を知ることができる

回	テーマ	内容
1	臨床運動学とは?	臨床運動学についての基本 観察・動作分析・運動分析について
2	動作分析のための評価方法	Functional Reach test、Time UP and Go test他
3	歩行分析①	正常歩行の復習
4	歩行分析②	異常歩行の原因、分類
5	バイオメカニクスの基本	てことモーメントの基本
6	動作とバイオメカニクス	動作をバイオメカニクスで考える
7	各種動作	立ち上がり動作
8	各種動作	寝返り、起き上がり動作
9	各種動作	評価チャート作成
10	疾患別動作観察、動作分析	脳梗塞片麻痺患者の歩行、各種動作
11	疾患別動作観察、動作分析	脳卒中片麻痺患者の歩行、各種動作
12	疾患別動作観察、動作分析	変形性股関節症患者の歩行、各種動作
13	疾患別動作観察、動作分析	腰部脊柱管狭窄症患者の歩行、各種動作
14	疾患別動作観察、動作分析	変形性股関節症術後患者の歩行、各種動作
15	まとめ	各種動作とバイオメカニクスの練習問題

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「動作のメカニズムがよくわかる実践! 動作分析」上杉雅之監修、医歯薬出版(株)	期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言語聴覚療法概論		理学療法科/2年	2021/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本、住田(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムについて学習する。また、リハビリテーションが難渋する高次脳機能障害についての知識と理解を深める。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムが理解できる。 治療方法について理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	概論1	言語聴覚療法とは		
2	概論2	高次脳機能障害とは		
3	認知症とは	病態・治療法		
4	CT、MRIのみかた	種々の画像		
5	知的機能検査	検査方法の紹介		
6	失語症、失行症の評価	SLTA、WAB		
7	失認症の評価	視覚失認、身体失認、触覚失認、聴覚失認		
8	認知症の評価	HDS-R、MMSE		
9	記憶の評価	記憶の種類と検査		
10	前頭葉機能の評価	FAB、BADs		
11	嚥下障害について1	嚥下のメカニズム		
12	嚥下障害について2	誤嚥		
13	嚥下障害について3	食事介助		
14	嚥下機能の評価	水のみテスト		
15	まとめ、振り返り	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『聴覚・言語・嚥下の基礎と障害』宮本健作 編著 ブレーン出版 『失語症治療へのアプローチ』武田克彦 著 中外医学社		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論		理学療法科/2年	2021/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	丁子・中川・木下・梶(実務経験有)
授業の概要				
作業療法で用いる作業の意味を理解できる。 作業療法の領域を理解できる。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
作業療法を理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	身体障害領域の作業療法1	概論		
2	身体障害領域の作業療法2	急性期から回復期における作業療法の実際		
3	発達障害領域の作業療法1			
4	発達障害領域の作業療法2			
5	精神障害領域の作業療法1			
6	精神障害領域の作業療法2			
7	地域における作業療法1			
8	地域における作業療法2			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	25.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学Ⅰ（職業倫理・職場管理）		理学療法科/2年	2021/後期	講義 （一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉元雅晴（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士として勤務する臨床（病院・地域）、教育、研究領域における倫理、管理について、ディスカッションを含めながら理解を深める。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 理学療法の実施手順について理解し、説明できる。2. 理学療法士の専門職倫理の意義を理解し、説明できる。3. 職場の組織について理解し、説明できる。4. 職場管理（診療記録と書類管理）について理解し、説明できる。5. 理学療法実施時の安全管理や危機管理を理解し、実施できる。6. 理学療法機器の配置計画や管理について理解し、説明できる。7. 他の医療職種との業務調整、連携の重要性を理解し、説明できる。8. 職場倫理（ハラスメント）について理解し、説明できる。9. 医療保険制度、介護保険制度について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	管理の概念①	理学療法管理学の職業倫理と職場管理の概念と構造を教授する。		
2	管理の概念②	医学・医療の相違、医療と福祉の相違、哲学と倫理学と法律や道徳の相違などの語句の意味を説明する。		
3	理学療法士の専門職倫理の意義	「ヒポクラテスの誓い」から「PT協会の倫理規定」の経過と意義を説明する。		
4	理学療法士の職業倫理	対象者（患者）の権利・尊厳の意義を説明する。守秘義務、個人情報保護、インフォームド Consent（アセント）の意義を説明する。		
5	理学療法業務の管理	医師の処方のもと理学療法を実施し、診療録を記載する義務があり、患者に対して守るべきモラルを教授する。		
6	理学療法士の職場管理	「理学療法士及び作業療法士法」と関連する法律などにより、医療専門職種と位置づけられていること説明する。		
7	医療機能の分化とチーム医療	近代の医療機能が専門分化されてきているので、専門職連携・統合を目指すチーム医療（シンメディカル）が重要になってきていることを教授する。		
8	教育・研究の管理	高度の専門知識と技能及び倫理を持ち続けるよう、生涯教育と問題解決能力を高める必要性を説明する。研究倫理規定にも触れる。		
9	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント	医療保険制度・介護保険制度を通して、理学療法を実施していることを紹介する。		
10	医療安全管理の重要性	医療専門職種として、理学療法室内や理学療法領域で使用している機器の保全・管理は責務であることを教授する。		
11	疾患別・病期別の理学療法マネジメント	いかなる疾患であれ、理学療法を実施するには障害像を把握することが重要である。そのうえで、疾患が有する特徴的なリスクを回避しながら理学療法を遂行することが重要であることを教授する。		
12	急性期病院での理学療法マネジメント	疾患の急性期は病態が安定せず、患者の不安や意識清明でない中の理学療法も遂行されるので、細心の注意を払うことの重要性を具体例を通して解説する。		
13	回復期病院での理学療法マネジメント	回復期リハビリテーション病棟での理学療法は、在宅復帰や社会参加を目指して活動能力の向上を支援する上での注意点を具体例を通して解説する。		
14	生活期を支援する理学療法マネジメント（介護老人保健施設等）	疾患特有の合併症に向き合いながら社会参加をしている障がい者や高度の障害により在宅医療を受けながら社会参加している者への対応の仕方を具体例を通して解説する。		
15	理学療法を専攻する学生へのメッセージ	臨床・教育・研究領域での活動やエピソードを紹介し、学生と臨床実習や就職に関することを討論する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
理学療法管理学 編著者代表；奈良勲、医歯薬出版		定期試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅰ(総論)		理学療法科/1年	2021/前期	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本 政孝(実務経験有)
授業の概要				
評価の意義、目的を知る バイタルサインについて知り、実施する。 形態測定の意義を知り、実施する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価の意義、目的を知り理解する。 ・バイタルサインについてその数値の示す意味を理解し、実施できる。 ・メジャーを用いて四肢長・周径測定ができる。 				
回	テーマ	内容		
1	評価総論	評価の意義、目的		
2	バイタルサイン	意識障害、心拍、体温、		
3	バイタルサイン	呼吸評価、経皮的酸素飽和度、血圧		
4	形態測定	身体計測と体幹周径①		
5	形態測定	身体計測と体幹周径②		
6	形態測定	上肢周径①		
7	形態測定	上肢周径②		
8	形態測定	下肢周径①		
9	形態測定	下肢周径②		
10	形態測定	上肢長①		
11	形態測定	上肢長②		
12	形態測定	下肢長①		
13	形態測定	下肢長②		
14	形態測定	形態測定まとめ①		
15	形態測定	形態測定まとめ②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学 改訂第6版」松澤 正著 金原出版株式会社		実習・実技評価 期末試験	50.0% 50.0%	状況により実技試験が実施できない場合は筆記試験100%での評価とする

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅱ (基礎)		理学療法科/1年	2021/後期	演習 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	西部 (実務経験有)

授業の概要

各関節の可動域をゴニオメーターを用いて測定する。
 関節可動域制限のある場合の動作を予測する。
 【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・ゴニオメーターを用い、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」にそって測定し、記録できる。
- ・正常可動域を理解する。
- ・関節可動域の異常について考察できる。

回	テーマ	内容
1	関節可動域検査の概要	目的、運動方向、表示法、ゴニオメーター、activeとpassive、
2	ROM-T(上肢)	肩関節①
3	ROM-T(上肢)	肩関節②
4	ROM-T(上肢)	肩甲帯
5	ROM-T(上肢)	肘関節・前腕
6	ROM-T(上肢)	手関節・手指
7	ROM-T(下肢)	股関節①
8	ROM-T(下肢)	股関節②
9	ROM-T(下肢)	膝関節・足関節
10	ROM-T(下肢)	足関節
11	ROM-T(下肢)	下肢のまとめ
12	ROM-T(体幹)	頸部
13	ROM-T(体幹)	体幹
14	ROM-Tのまとめ	上肢・下肢・体幹 別法の確認
15	拘縮と強直、変形	拘縮と強直、変形

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤正・江口勝彦 著 ゴニオメーター	期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅲ		理学療法科/2年	2021/前期	演習(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	秋元, 高原(実務経験有)
授業の概要				
理学療法士として使う頻度の高い検査方法なので、検査の意義、検査方法について実技を主として進めていく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの検査の意義・方法ができる。 ・筋の起始停止・支配神経・髄節を理解する。 ・筋力と動作の関連を考察する。 				
回	テーマ	内 容		
1	徒手筋力検査法	筋力測定概論		
2	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定①		
3	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定②		
4	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定③		
5	徒手筋力検査法	肩甲帯運動の筋肉 筋力測定①		
6	徒手筋力検査法	肩甲帯運動の筋肉 筋力測定②		
7	徒手筋力検査法	肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定①		
8	徒手筋力検査法	肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定②		
9	徒手筋力検査法	上肢練習		
10	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定①		
11	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定②		
12	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定③		
13	徒手筋力検査法	膝、足関節、運動の筋肉 筋力測定①		
14	徒手筋力検査法	膝、足関節、運動の筋肉 筋力測定②		
15	徒手筋力検査法	下肢練習		

回	テ ー マ	内 容		
16	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定①		
17	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定②		
18	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定③		
19	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定①		
20	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定②		
21	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定③		
22	徒手筋力検査法	顔面の筋		
23	徒手筋力検査法	MMT総復習①		
24	徒手筋力検査法	MMT総復習②		
25	筋緊張検査	筋緊張とは？ 筋緊張検査 筋緊張検査の解釈の仕方		
26	協調性検査	協調性検査の意義、協調性検査 バランス検査		
27	反射検査	深部腱反射・表在反射		
28	反射検査	病的反射 反射検査の解釈の仕方		
29	疼痛検査	疼痛について、用語整理		
30	疼痛検査	疼痛評価法 疼痛評価の実践		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤 正 著 金原 出版株式会社 「新・徒手筋力検査法」津山 直一 訳 協同医書出版社 打腱器		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	・服装含む身なりに気をつけること。 ・試験日は前もって連絡する。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法IV		理学療法科/2年	2021/後期	演習 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	石吾亘(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 片麻痺機能検査や知覚検査の方法について実技を中心に学習する。 各疾患特有の症状に対する検査測定を行い、検査結果について学ぶ。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 片麻痺機能検査を行うことができる。 知覚検査を行うことができる。 運動耐用度の検査やアンダーソン・土肥の基準を理解する。 疾患の特徴を捉えた検査を行うことができる。 				
回	テーマ	内 容		
1	片麻痺機能検査	連合反応と協働運動、brunnstrom testのステージ		
2	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (上肢)		
3	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (手指)		
4	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (下肢)		
5	知覚検査(表在感覚)	触覚、痛覚、温度覚		
6	知覚検査(深部感覚・複合感覚)	関節覚、位置覚、運動覚 2点識別覚、皮膚書字検査、立体覚		
7	運動耐用度の検査	運動負荷試験 ボルグスケール		
8	リスク管理	アンダーソン・土肥の基準		
9	疾患別評価①脳卒中片麻痺			
10				
11				
12				
13	疾患別評価②SCD			
14				
15				

回	テーマ	内 容		
16				
17	疾患別評価③パーキンソン病			
18				
19				
20				
21	疾患別評価④頸椎・腰椎椎間板ヘルニア			
22				
23				
24				
25	疾患別評価⑤COPD			
26				
27				
28				
29	疾患別評価⑥心筋梗塞			
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤 正 著 金原出版株式会社		実習・実技評価 期末試験	60.0% 40.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法Ⅰ（基礎）		理学療法科/2年	2021/前期	講義（演習も含む） （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	中・山本（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士が現場で対応することが多い、変形性膝関節症、大腿骨頸部骨折、脳血管障害の実際の症例を踏まえながら、概要を把握し、各障害に対する運動療法の演習を行う 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：疾患概要と障害に対する運動療法を理解する 技術：障害に対する評価、基礎治療ができる 態度：専門技術を学ぼうとする姿勢を身につけることができる				
回	テーマ	内容		
1	運動療法総論	理学療法士とは 運動療法とは		
2	変形性膝関節症	症例紹介		
3	変形性膝関節症	概要		
4	変形性膝関節症	疼痛に対する運動療法		
5	変形性膝関節症	関節可動域制限に対する運動療法		
6	変形性膝関節症	筋力低下に対する運動療法		
7	変形性膝関節症	感覚障害に対する運動療法		
8	変形性膝関節症	歩行障害に対する運動療法		
9	変形性膝関節症	基本的動作、生活動作障害に対する運動療法		
10	人工膝関節置換術	概要		
11	人工膝関節置換術	リハビリテーションと理学療法		
12	大腿骨頸部骨折	症例紹介		
13	大腿骨頸部骨折	概要		
14	大腿骨頸部骨折	疼痛に対する運動療法		
15	大腿骨頸部骨折	関節可動域制限に対する運動療法		

回	テ ー マ	内 容		
16	大腿骨頸部骨折	筋力低下に対する運動療法		
17	大腿骨頸部骨折	感覚障害に対する運動療法		
18	大腿骨頸部骨折	歩行障害に対する運動療法		
19	大腿骨頸部骨折	基本的動作、生活動作障害に対する運動療法		
20	大腿骨頸部骨折	手術療法概要		
21	大腿骨頸部骨折	手術療法に対する運動療法		
22	脳血管障害	症例紹介		
23	脳血管障害	概要		
24	脳血管障害	運動麻痺に対する運動療法		
25	脳血管障害	感覚障害に対する運動療法		
26	脳血管障害	協調性・バランス障害に対する運動療法		
27	脳血管障害	高次脳機能障害に対する運動療法		
28	脳血管障害	肩手症候群に対する運動療法		
29	脳血管障害	歩行障害に対する運動療法		
30	脳血管障害	基本的動作・生活動作障害に対する運動療法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書 運動療法学 障害別アプローチの理論と 実際 参考図書 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総 論運動器系 第3版		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	演習を含むので授 業は実習着もしく はジャージを着用 すること 実習を想定して授 業内容に関しては

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法Ⅱ (応用)		理学療法科/2年	2021/後期	講義 (演習も含む) (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	中・山本 (実務経験あり)
授業の概要				
呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害の原因を理解し、それに対する運動療法を学習する 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害の原因を理解できる 呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害に対する評価・治療技術を選択し施行できる 				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸障害 概論	呼吸器の解剖生理 呼吸障害 分類・評価・治療		
2	呼吸障害に対する運動療法	運動療法各論		
3	循環障害 概論	循環器の解剖生理 循環障害 分類・評価・治療		
4	循環障害に対する運動療法	運動療法各論		
5	代謝障害 概論	代謝の解剖生理 代謝障害 分類・評価・治療		
6	代謝障害に対する運動療法	運動療法各論		
7	嚥下機能障害 概論	嚥下の解剖生理 嚥下機能障害 分類・評価・治療		
8	嚥下障害に対する運動療法	運動療法各論		
9	疼痛 概論	疼痛の解剖生理 疼痛 分類・評価・治療		
10	疼痛に対する運動療法	運動療法各論		
11	感覚障害 概論	感覚器の解剖生理 感覚障害 分類・評価・治療		
12	感覚障害に対する運動療法	運動療法各論		
13	バランス障害 概論	バランス 解剖生理 バランス障害 分類・評価・治療		
14	バランス障害に対する運動療法	運動療法各論		
15	協調性運動障害 概論	協調性運動 解剖生理 協調性運動障害 分類・評価・治療		

回	テーマ	内 容		
16	協調性運動障害に対する運動療法	運動療法各論		
17	中枢神経障害 概論	中枢神経 解剖生理 中枢神経障害 分類・評価・治療		
18	中枢神経障害に対する運動療法	運動療法各論		
19	末梢神経障害 概論	末梢神経 解剖生理 末梢神経障害 分類・評価・治療		
20	末梢神経障害に対する運動療法	運動療法各論		
21	姿勢障害 概論	姿勢 解剖生理 姿勢障害 分類・評価・治療		
22	姿勢障害に対する運動療法	運動療法各論		
23	歩行障害 概論	歩行 解剖生理 歩行障害 分類・評価・治療		
24	歩行障害に対する運動療法	運動療法各論		
25	発達障害 概論	発達 解剖生理 発達障害 分類・評価・治療		
26	発達障害に対する運動療法	運動療法各論		
27	高次脳機能障害 概論	高次脳機能障害 高次脳機能障害 分類・評価・治療		
28	高次脳機能障害に対する運動療法	運動療法各論		
29	グループ発表	各障害に対する評価から治療までのデモを実施		
30	グループ発表	各障害に対する評価から治療までのデモを実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書 運動療法学 障害別アプローチの理論と 実際 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総 論運動器系 第3版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版		実習・実技評価 期末試験	60.0% 40.0%	演習が多くなります。実際の現場を想定してそれに相応しい身だしなみで参加することが望ましい。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法Ⅰ(温熱・寒冷・超音波・光線・牽引)		理学療法科/1年	2021/後期	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)
授業の概要				
疼痛の生理学 可動域制限のメカニズム 物理療法の基礎 物理療法の適応、効果、禁忌を学ぶ 物理療法機器の使用方法を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
疼痛の生理学を理解する 可動域制限のメカニズムを理解する 物理療法の基本、原理を理解する 物理療法の適応、効果、禁忌を理解する 物理療法機器の使用方法を理解する				
回	テーマ	内 容		
1	疼痛	疼痛の生理学		
2	可動域制限	可動域制限のメカニズム		
3	温熱療法①	温熱療法(伝導熱)の基本、原理 伝導熱: ホットパック、パラフィン浴		
4	温熱療法②	温熱療法(輻射熱)の基本、原理 輻射熱: 赤外線療法		
5	温熱療法③	温熱療法(エネルギー変換熱)の基本、原理 エネルギー変換熱: 超短波療法、極超短波療法		
6	寒冷療法	寒冷療法の基本、原理 寒冷療法: アイスパック、冷水浴、コールドスプレー		
7	超音波療法①	超音波療法の基本、原理 超音波機器、超音波診断装置		
8	超音波療法② 実習	超音波機器の実演、体験		
9	光線療法①	光線療法の基本、原理 紫外線療法、レーザー療法		
10	牽引療法	牽引療法の基本、原理(デルマトーム含む) 自重牽引、牽引療法機器		
11	グループ課題①	物理療法機器の使用方法を学ぶ 目的、効果、禁忌を学ぶ		
12	グループ課題②	物理療法機器の使用手法資料作成		
13	グループ発表①	物理療法機器の使用手法、目的、効果、禁忌など グループ発表		
14	グループ発表②	グループ発表		
15	物理療法機器の使用体験	物理療法使用体験、演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「エビデンスから身につける物理療法」羊土社		確認テスト 課題・レポート 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法Ⅱ		理学療法科/2年	2021/前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)
授業の概要				
物理療法の基礎(電気療法、水治療法を中心に) 物理療法の効果と禁忌 物理療法機器の使用方法 疾患に関連させた物理療法について調べ、発表する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
物理療法の基礎を理解する 物理療法の効果と禁忌を理解する。 物理療法機器の使用方法を理解し、発表できる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	自己紹介、講義の進め方、物理療法の実際(現状)		
2	電気刺激療法①	電気刺激療法の基本、原理 経皮的神経電気刺激、干渉波 目的、効果、禁忌		
3	電気刺激療法②	神経筋電気刺激 目的、効果、禁忌		
4	電気刺激療法③	機能的電気刺激 目的、効果、禁忌		
5	電気刺激療法④	電気刺激療法機器の使用方法、使用体験		
6	水治療法①	水の特性、作用 水治療法の目的、効果、禁忌		
7	水治療法②	水治療法機器の使用方法、使用体験		
8	復習①	温熱療法		
9	復習②	寒冷療法、牽引療法		
10	復習③	光線療法		
11	グループ課題①	グループ分け、グループ課題取り組み		
12	グループ課題②	グループ課題取り組み		
13	グループ発表①	グループ発表		
14	グループ発表②	グループ発表		
15	まとめ	物理療法の活用方法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
エビデンスから身につける物理療法: 羊土社		確認テスト 課題・レポート 実技試験 期末試験	10.0% 20.0% 10.0% 60.0%	※実技試験が実施できない場合は、筆記試験を70.0%とする。

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		理学療法科/2年	2021/後期	講義(演習も含む) (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長谷川(実務経験あり)

授 業 の 概 要

本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。
【実務経験】製作所勤務

授業終了時の到達目標

切断に対応した義肢が選択できる。
義肢を生活上で使用する上での注意点を理解することができる。

回	テ ー マ	内 容
1	概要	切断と義肢の歴史
2	切断術	術式
3	大腿義足①	大腿義足の名称、ソケット
4	大腿義足②	膝継手、足継手
5	大腿義足③	チェックアウト
6	大腿義足④	適応基準
7	下腿義足①	下腿義足の名称、ソケット
8	下腿義足②	足継手
9	下腿義足③	チェックアウト
10	下腿義足④	適応基準
11	股義足①	股義足の名称、ソケット
12	股義足②	チェックアウト
13	サイム～足部義足	チェックアウト
14	術直後義肢装着法	チェックアウト
15	まとめ	復習

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
『義肢装具学』千住秀明 監修 神陵文庫 『下肢切断の理学療法』細田多穂 編著 医歯薬出版 『義肢学』澤村誠志 編 医歯薬出版	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学		理学療法科/2年	2021/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・秋元(実務経験有)
授業の概要				
装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・装具の分類、機能、目的について述べる事が出来る。 ・疾患や対象者に合った装具を選定できる。 				
回	テーマ	内容		
1	装具学総論	装具の目的、機能、対象疾患、分類。3点固定の原理。装具作成の流れ。		
2	下肢装具の構成部品とチェックアウト	下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて		
3	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足部関節の制限・制御メカニズム		
4	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
5	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について		
6	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
7	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
8	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
9	脊椎側彎症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
10	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
11	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
12	靴型装具 車椅子・杖	靴型装具の基本構造と機能特徴とメカニズムについて 車椅子・杖の種類と特徴、各部位の名称について		
13	装具装着の歩行①	片麻痺患者の装具装着しての歩行の動作分析①		
14	装具装着の歩行②	片麻痺患者の装具装着しての歩行の動作分析②		
15	装具装着の動作分析	対麻痺患者の装具装着しての歩行の動作分析①		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「PT/OTビジュアルテキスト 義肢装具学 第1版」高田治実 監修 羊土社		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅰ（基礎）		理学療法科/1年	2021/前期	演習（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	秋元俊子（実務経験有）
授業の概要				
ADLとはなにか？福祉用具や車いすや歩行器、杖などの歩行補助具について使い方を学ぶ。 障害者・高齢者用体験グッズを装着し、日常生活を体験をする。 基本動作について学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ADLと基本動作について理解する。 ・杖や車椅子の名称や使用方法、介助方法を獲得する。 				
回	テーマ	内容		
1	ADL概論	ADLについて		
2	福祉用具	福祉用具の種類、対象疾患、使用方法		
3	松葉杖の使い方①	松葉杖の処方、歩行		
4	松葉杖の使い方②	松葉杖の立ち座り、階段昇降		
5	杖の処方①	杖の種類、処方		
6	杖の処方②	杖での歩行、階段		
7	車椅子の処方	車椅子の種類、各部の名称、処方		
8	車椅子移動	車椅子の駆動、介助法、歩行器		
9	歩行補助具の屋外体験①	松葉杖、T字杖、シルバーカーなどを屋外で体験（歩道、横断歩道、歩道橋など）		
10	歩行補助具の屋外体験②	松葉杖、T字杖、シルバーカーなどを屋外で体験（歩道、横断歩道、歩道橋など）		
11	障害者・高齢者のADL①	障害者・高齢者体験グッズを装着してのADL体験		
12	障害者・高齢者のADL②	障害者・高齢者体験グッズを装着してのADL体験		
13	起居動作①	寝返り・起き上がり		
14	起居動作	端坐位からの立ち上がり・立ち座り		
15	起居動作③	床からの立ち上がり、立ち座り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ (応用)		理学療法科/2年	2021/後期	演習 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	黒田龍太郎(実務経験あり)
授業の概要				
<p>正常動作の起居動作についてGWにて分析します。 そのあと、各代表疾患の特徴を踏まえてADL指導のポイントと同時に起居動作指導方法の検討、介助方法の検討と体系的に学習します。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・正常動作を知る。 ・正常動作と各種疾患の典型例との違いを理解する。 ・各種疾患の典型動作例を理解し、ADL指導のポイントを理解する。 ・移乗動作の介助方法を習得する。 				
回	テーマ	内容		
1	動作分析総論	姿勢動作の観察ポイント		
2	正常動作分析	寝返り		
3		起き上がり		
4		起居動作(背臥位～端坐位) 立ち上がり、移乗動作		
5	脳卒中片麻痺動作分析	起居動作		
6		立ち上がり、移乗動作		
7	代表的疾患(脳卒中片麻痺患者例)	更衣動作 起居動作方法		
8	代表的疾患(脊髄損傷上位頸髄レベル患者例)	更衣動作 起居動作方法		
9	代表的疾患(脊髄損傷下位頸髄レベル患者例)	更衣動作 起居動作方法		
10	代表的疾患(脊髄損傷胸腰髄レベル患者例)	更衣動作 起居動作方法		
11	代表的疾患(リウマチ、膝OAの患者例)	更衣動作 起居動作方法		
12	代表的疾患(頸部骨折患者例①)	更衣動作、起居動作方法①		
13	代表的疾患(頸部骨折患者例②)	更衣動作、起居動作方法②		
14	大腿切断患者例 高齢者患者例 移乗動作の介助方法	ADL指導のポイント 疾患別移乗動作の介助方法		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「日常生活活動学テキスト」細田多穂 監 南江堂 「症例動作分析」隈元 庸夫 監修 ヒューマンプレス		課題・レポート 確認テスト	10.0% 90.0%	班ごとに正常動作 分析レポート課題 を課すので、授業 で提示する提出期 限を守り、提出す ること。必ず班員 全員で協力して課 題に臨むこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ-1 (整形)		理学療法科/3年	2021/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位 (90時間)	必須	高原、八田、北野、舟坂、藤櫻、赤江、谷敷、柴田、畠 (実務経験有)
授業の概要				
整形外科疾患の基本を知り、評価、治療法を学ぶ 基本的疾患から評価、治療法を学び、治療計画を立てられるよう課題に取り組む 治療計画を立てたうえで実践できるように実技練習を実施する 症例検討を通じて実践的に考える練習をし、SOAP作成を実施する 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形外科疾患の基本を知り、評価、治療を知ることができる 基本的疾患から評価、治療法を学んだうえで、治療計画を立てることができる 治療計画を立てたうえで実践できる 症例検討を通じて実践的に考え、SOAP作成を実施できる				
回	テーマ	内容		
1	整形外科疾患総論	整形外科疾患の問題のとらえ方		
2	画像の基本	MRI、CT、Echoについて		
3	変形性膝関節症	変形性膝関節症とは？ 変形の原因、分類		
4	変形性膝関節症	変形性膝関節症の評価		
5	変形性膝関節症	変形性膝関節症の治療、ADL指導、症例検討、SOAP作成		
6	TKA	変形性膝関節症の手術選択 TKAとは？		
7	TKA	TKAの術後評価		
8	TKA	TKAの術後治療、症例検討、SOAP作成		
9	変形性股関節症	変形性股関節症とは？		
10	変形性股関節症	変形性股関節症の評価		
11	変形性股関節症	変形性股関節症の治療、症例検討、SOAP作成		
12	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折とは？ 大腿骨頸部骨折の保存療法と手術療法		
13	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折の術後評価		
14	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折の術後治療、症例検討、SOAP作成		
15	肩腱板断裂	肩腱板断裂とは？ 肩腱板断裂の保存療法と手術療法		

回	テーマ	内容
16	肩腱板断裂	肩腱板断裂の評価
17	肩腱板断裂	肩腱板断裂の治療、症例検討、SOAP作成
18	肩関節脱臼、SLAP	肩関節脱臼、SLAPとは？ 肩関節脱臼、SLAPの保存療法と手術療法
19	肩関節脱臼、SLAP	肩関節脱臼、SLAPの評価
20	肩関節脱臼、SLAP	肩関節脱臼、SLAPの治療、症例検討、SOAP作成
21	半月板損傷と前十字靭帯損傷	半月板損傷、前十字靭帯損傷とは？ 保存療法と手術療法の選択
22	半月板損傷と前十字靭帯損傷	半月板損傷、前十字靭帯損傷の評価
23	半月板損傷と前十字靭帯損傷	半月板損傷、前十字靭帯損傷の治療、症例検討、SOAP作成
24	足部疾患	足部疾患とは？ 足部疾患の保存療法と手術療法
25	足部疾患	足部疾患の評価
26	足部疾患	足部疾患の治療、症例検討、SOAP作成
27	神経絞扼障害	神経絞扼障害とは？ (手根管症候群、肘部管症候群、胸郭出口症候群)
28	神経絞扼障害	神経絞扼障害の評価
29	神経絞扼障害	神経絞扼障害の治療
30	腰部疾患	腰部疾患（ヘルニア、脊柱管狭窄症など）とは？ 腰部疾患の保存療法と手術療法
31	腰部疾患	腰部疾患の評価
32	腰部疾患	腰部疾患の治療
33	切断	切断の基本
34	切断	切断の評価
35	切断	切断の治療、症例検討、SOAP作成

回	テーマ	内容		
36	急性期のリハビリテーション	手術後のリスク管理（深部静脈血栓症DVT・肺塞栓症PTEなど）		
37	急性期のリハビリテーション	急性期の検査、評価		
38	急性期のリハビリテーション	急性期の治療、症例検討、SOAP作成		
39	慢性期のリハビリテーション	慢性期のリスク管理、在宅リハビリテーションの考え方		
40	慢性期のリハビリテーション	慢性期、在宅リハビリテーションの評価、治療		
41	慢性期のリハビリテーション	慢性期の症例検討、SOAP作成		
42	国家試験問題	講義範囲の国家試験問題実施、解説		
43	国家試験問題	講義範囲の国家試験問題実施、解説		
44	国家試験問題	講義範囲の国家試験問題実施、解説		
45	まとめ	各種まとめ		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「リハビリに直結する！運動器画像の見かた」羊土社	期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	※実技試験は困難なため、課題割合を増加する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ-1 (神経)		理学療法科/3年	2021/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位 (90時間)	必須	杉本、石黒、仲川 (実務経験有)
授業の概要				
脳血管疾患 脊髄損傷 神経筋疾患 難病 等の 理学療法の評価と治療 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管疾患・脊髄損傷・神経筋疾患の臨床像 (病態・画像診断・治療を含む) を説明することができる。 ・脳血管疾患・脊髄損傷・神経筋疾患に対する理学療法評価を行うことができる。 ・脳血管疾患・脊髄損傷・神経筋疾患の患者の基本動作の分析と誘導を行うことができる。 ・脳血管疾患・脊髄損傷・神経筋疾患の各病期に応じた基本的理学療法を実施することができる。 				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害概論1	脳の機能解剖について。脳血管の支配領域について。画像診断 (CT・MRI・MRA)		
2	脳血管障害概論2	病態について。内科的・外科的治療について		
3	脳血管障害概論3	内科的・外科的治療について		
4	脳血管障害の臨床像	急性期、回復期、生活期、それぞれの臨床像について		
5	脳血管障害: 臥位レベルの評価と治療1	ポジショニングについて、上下肢のプレーシング、姿勢評価、支持面の評価について		
6	脳血管障害: 臥位レベルの評価と治療2	寝返り、起き上がりの動作分析		
7	脳血管障害: 臥位レベルの評価と治療3	寝返りへの介入		
8	脳血管障害: 臥位レベルの評価と治療4	起き上がりの介入		
9	脳血管障害: 座位レベルの評価と治療1	座位での前後、左右への重心移動の評価		
10	脳血管障害: 座位レベルの評価と治療2	リーチ活動などを用いた座位バランスの促通		
11	脳血管障害: 座位レベルの評価と治療3	立ち上がり動作の評価について		
12	脳血管障害: 座位レベルの評価と治療4	立ち上がり動作へのかいにゆ、(前方から・側方から・後方から)		
13	脳血管障害: 立位レベルの評価と治療1	立位での前後、左右への重心移動の評価と介入		
14	脳血管障害: 立位レベルの評価と治療2	つま先立ち、踵立しの誘導、前方、側方からの片脚立位の誘導		
15	脳血管障害: 立位レベルの評価と治療3	歩行動作への介入 ①ステップポジション ②荷重応答期 ③立脚中期		

回	テーマ	内容
16	脳血管障害：立位レベルの評価と治療4	歩行動作への介入 ④非麻痺側前方のステップポジションから後方への重心移動 ⑤ステップトウフォロー
17	下肢装具の復習	短下肢装具、長下肢装具の機能とCVA患者の歩行レベルの適応について、クレンザック継手の機能について
18	高次脳機能障害に対するアプローチ1	半側空間無視の病態、評価、アプローチについて
19	高次脳機能障害に対するアプローチ2	プッシャー症候群の病態、評価、アプローチについて、失行症、失語症、その他の高次機能障害について
20	脊髄損傷概論1	脊髄の機能解剖について、デルマトーム、マイオトーム
21	脊髄損傷概論2	脊髄損傷の病態、症状について
22	脊髄損傷の理学療法について1	脊髄損傷の評価、AIS/A、Frankle、ザンコリー分類
23	脊髄損傷の理学療法について2	損傷レベル別のアプローチについて、二次障害、合併症の対応
24	PDの理学療法について1	パーキンソン病の病態、4大徴候とそれ以外の症状
25	PDの理学療法について2	ヤールの重症度分類・UPDRSについて、ステージに対応した理学療法
26	筋ジストロフィーの理学療法	Duchenne型筋ジストロフィーの疫学、経過と障害、Duchenne型のステージと対応する理学療法
27	SCDの理学療法について	運動失調について。SCDの分類と症状について。運動失調の検査方法、理学療法とリスク管理。
28	ALS, MS, GBSの理学療法について1	ALS, MS, GBSの症状
29	ALS, MS, GBSの理学療法について	ALS, MS, GBSの評価
30	ALS, MS, GBSの理学療法について	ALS, MS, GBSの理学療法とリスク管理
31	GBSの理学療法について	GBSについて
32	CVAの基本動作分析①	寝返り①
33	CVAの基本動作分析②	寝返り②
34	CVAの基本動作分析③	起き上がり①
35	CVAの基本動作分析④	起き上がり②

回	テーマ	内容		
36	CVAの基本動作分析⑤	立ち上がり①		
37	CVAの基本動作分析⑥	立ち上がり②		
38	CVAの基本動作分析⑦	歩行①		
39	CVAの基本動作分析⑧	歩行②		
40	慢性期のリハビリテーション①	慢性期リハビリテーションの考え方		
41	慢性期のリハビリテーション②	慢性期リハビリテーションの評価		
42	慢性期のリハビリテーション③	慢性期リハビリテーションの治療		
43	慢性期のリハビリテーション④	慢性期リハビリテーションの症例検討		
44	神経難病①	神経難病の考え方、評価、治療		
45	神経難病②	神経難病の症例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
実践リハテクニック脳卒中、神経筋障害理学療法テキスト 病気が見える 脳・神経		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ-1 (小児)		理学療法科/3年	2021/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	杉本 和彦 (実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ CP、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの病態、症状 ・ CP、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの評価と理学療法 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ CPの病態、臨床像を理解する。 ・ CPに対する理学療法の概略を理解する。 ・ 筋ジス、二分脊椎、発達障害に関する臨床像と理学療法の概略を理解する。 				
回	テーマ	内容		
1	脳性まひの評価概論	脳性ま痺の病態、臨床像について。GMFCS, GMFM, FEDI, FIMなどの評価指標について		
2	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)1	両麻痺の姿勢、基本動作についてビデオ画像をもとに分析して整理する①		
3	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)2	両麻痺の姿勢、基本動作についてビデオ画像をもとに分析して整理する②		
4	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)3	姿勢・動作分析から機能障害の問題点との関連性を整理する。		
5	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)4	ICFに基づき問題点を整理し、治療目標を立てる。		
6	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する①		
7	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)2	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する②		
8	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)3	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する③		
9	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)4	脳性麻痺のタイプ別の治療に対する考え方の整理する		
10	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)5	脳性麻痺治療ガイドラインについて		
11	重症心身障害児・者に対する理学療法について1	重症心身障害児・者に対する理学療法の考え方について		
12	重症心身障害児・者に対する理学療法について2	重症心身障害児・者に対する姿勢ケアの考え方と実際		
13	二分脊椎の理学療法について	二分脊椎の病態、症状について 損傷レベルに応じた理学療法について		
14	小児の整形疾患について	小児の整形疾患の臨床像と理学療法について		
15	発達障害について	自閉症スペクトラム、ADHD、LDの臨床像と理学療法の役割について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストで分かる小児理学療法 イラストで分かる人間発達学		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学IV-1 (内科)		理学療法科/3年	2021/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	中島、藤吉、笹谷 (実務経験有)
授業の概要				
<p>内部障害の患者様を担当する上で必要となる最低限の国家試験レベルの基礎知識を学習する また、臨床実習に必要とされる情報収集からカルテ記載までの一連の流れについて現場の理学療法士の方々から学ぶ 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>態度：臨床実習に向けて自ら必要とする知識・技術を身につける為に、能動的に取り組むことができる 知識：内部障害に関して国家試験レベルの基礎知識を身につける 技能：呼吸、循環、代謝障害について</p>				
回	テーマ	内容		
1	内部障害概論	定義、疫学		
2	呼吸機能検査	X線所見、肺気量分画、肺音聴診、フローボリューム曲線、呼吸機能評価		
3	呼吸理学療法	胸郭可動域訓練、口すぼめ呼吸、腹式呼吸、リラクゼーション、呼吸筋筋力増強訓練、体位排痰、生活指導		
4	呼吸障害	拘束性換気障害、閉塞性換気障害		
5	人工呼吸器、在宅酸素	気管吸引、C-PAP、HOT		
6	周術期呼吸リハビリテーション	開胸・開腹の術前・後リハビリテーション		
7	心電図	異常心電図		
8	運動負荷強度	運動負荷試験、METs		
9	虚血性心疾患の運動処方	タイプ、強度、時間、頻度、開始基準、効果		
10	循環障害	心筋梗塞、心不全、閉塞性動脈硬化症、リンパ浮腫		
11	代謝障害	糖尿病 (DM)、慢性腎不全 (CKD)		
12	高齢障害	加齢に伴う生理的変化		
13	症例紹介	急性期の内部障害		
14	症例紹介	回復期の内部障害		
15	症例紹介	生活期の内部障害		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
疾患別リハビリテーション リスク管理マニュアル		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ-Ⅱ(整形)		理学療法科/4年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	杉本、松本(実務経験有)

授業の概要

本授業は、臨床実習で経験してきた整形疾患に対するケーススタディを通じて、病態、理学療法評価、治療についての基礎知識と実技を復習する

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

整形外科疾患を有する方への理学療法評価から治療までの一連の流れを理解する

回	テーマ	内容
1	骨折	
2	骨折	
3	骨折	
4	高齢者の骨折	
5	高齢者の骨折	
6	高齢者の骨折	
7	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア	
8	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア	
9	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア	
10	変形性股関節症(THA術後療法)	
11	変形性股関節症(THA術後療法)	
12	変形性股関節症(THA術後療法)	
13	変形性膝関節症(TKA術後療法)	
14	変形性膝関節症(TKA術後療法)	
15	変形性膝関節症(TKA術後療法)	

回	テ ー マ	内 容
16	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
17	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
18	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
19	末梢循環障害	
20	末梢循環障害	
21	末梢循環障害	
22	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
23	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
24	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
25	脊髄損傷	
26	脊髄損傷	
27	脊髄損傷	
28	関節リウマチ	
29	関節リウマチ	
30	関節リウマチ	
31	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
32	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
33	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
34	頸椎・腰椎術後療法	
35	頸椎・腰椎術後療法	

回	テーマ	内容		
36	頸椎・腰椎術後療法			
37	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
38	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
39	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
40	熱傷・切断と義肢			
41	熱傷・切断と義肢			
42	熱傷・切断と義肢			
43	まとめ			
44	まとめ			
45	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ-2 (神経)		理学療法科/4年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位 (90時間)	必須	杉本和彦、松本 (実務経験有)

授業の概要

本授業では、臨床実習で経験した症例を元にケーススタディを中心に脳血管障害、脊髄損傷を中心とした中枢神経疾患と難病の理学療法について、病態、理学療法評価、治療に関する実際と基礎的知識を復習する。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

神経疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる

回	テーマ	内容
1	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)
2	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)
3	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)
4	脳血管障害	理学療法評価
5	脳血管障害	理学療法評価
6	脳血管障害	理学療法評価
7	脳血管障害	急性期の理学療法
8	脳血管障害	急性期の理学療法
9	脳血管障害	急性期の理学療法
10	脳血管障害	回復期の理学療法
11	脳血管障害	回復期の理学療法
12	脳血管障害	回復期の理学療法
13	脳血管障害	維持期の理学療法
14	脳血管障害	維持期の理学療法
15	脳血管障害	維持期の理学療法

回	テ ー マ	内 容
16	脊髄損傷の理学療法 1	
17	脊髄損傷の理学療法 1	
18	脊髄損傷の理学療法 1	
19	脊髄損傷の理学療法 2	
20	脊髄損傷の理学療法 2	
21	脊髄損傷の理学療法 2	
22	脊髄損傷の理学療法 3	
23	脊髄損傷の理学療法 3	
24	脊髄損傷の理学療法 3	
25	Parkinson病の理学療法	
26	Parkinson病の理学療法	
27	Parkinson病の理学療法	
28	運動失調症の理学療法	
29	運動失調症の理学療法	
30	運動失調症の理学療法	
31	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
32	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
33	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
34	難病の理学療法	多発性硬化症
35	難病の理学療法	多発性硬化症

回	テ ー マ	内 容		
36	難病の理学療法	多発性硬化症		
37	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
38	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
39	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
40	頭部外傷			
41	頭部外傷			
42	頭部外傷			
43	まとめ			
44	まとめ			
45	まとめ			
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	適宜、配布	課題	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ-2 (小児)		理学療法科/4年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	杉本, 松本 (実務経験有)

授業の概要

本授業では、脳性麻痺児を中心に、発達障害に対する病態、評価、治療についての基本的知識を復習する。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

小児疾患に対する理学療法評価から治療の流れを理解できる

回	テーマ	内容
1	脳性麻痺児に対する評価・治療	
2	脳性麻痺児に対する評価・治療	
3	脳性麻痺児に対する評価・治療	
4	脳性麻痺児に対する評価・治療	
5	脳性麻痺児に対する評価・治療	
6	脳性麻痺児に対する評価・治療	
7	脳性麻痺児に対する評価・治療	
8	脳性麻痺児に対する評価・治療	
9	脳性麻痺児に対する評価・治療	
10	脳性麻痺児に対する評価・治療	
11	筋ジストロフィーに対する理学療法	
12	筋ジストロフィーに対する理学療法	
13	筋ジストロフィーに対する理学療法	
14	筋ジストロフィーに対する理学療法	
15	筋ジストロフィーに対する理学療法	

回	テーマ	内 容		
16	筋ジストロフィーに対する理学療法			
17	二分脊椎に対する理学療法			
18	二分脊椎に対する理学療法			
19	二分脊椎に対する理学療法			
20	二分脊椎に対する理学療法			
21	重症心身障害児に対する理学療法			
22	重症心身障害児に対する理学療法			
23	重症心身障害児に対する理学療法			
24	重症心身障害児に対する理学療法			
25	発達障害に関する理学療法			
26	発達障害に関する理学療法			
27	発達障害に関する理学療法			
28	発達障害に関する理学療法			
29	まとめ			
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布		課題	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ-2 (内科)		理学療法科/4年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	杉本、松本 (実務経験有)

授業の概要

本授業では、呼吸・循環・代謝系の理学療法を実施するうえで、各疾患における病態、評価、理学療法、リスク管理について復習し、ケーススタディを通じて学習内容の理解を深めることを目的とする
【実務経験】 病院勤務

授業終了時の到達目標

内科疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる

回	テーマ	内容
1	呼吸器疾患に対する理学療法	
2	呼吸器疾患に対する理学療法	
3	呼吸器疾患に対する理学療法	
4	呼吸器疾患に対する理学療法	
5	呼吸器疾患に対する理学療法	
6	呼吸器疾患に対する理学療法	
7	呼吸器疾患に対する理学療法	
8	呼吸器疾患に対する理学療法	
9	呼吸器疾患に対する理学療法	
10	呼吸器疾患に対する理学療法	
11	循環器疾患に対する理学療法	
12	循環器疾患に対する理学療法	
13	循環器疾患に対する理学療法	
14	循環器疾患に対する理学療法	
15	循環器疾患に対する理学療法	

回	テーマ	内 容		
16	循環器疾患に対する理学療法			
17	循環器疾患に対する理学療法			
18	循環器疾患に対する理学療法			
19	循環器疾患に対する理学療法			
20	循環器疾患に対する理学療法			
21	代謝疾患に対する理学療法			
22	代謝疾患に対する理学療法			
23	代謝疾患に対する理学療法			
24	代謝疾患に対する理学療法			
25	代謝疾患に対する理学療法			
26	代謝疾患に対する理学療法			
27	代謝疾患に対する理学療法			
28	代謝疾患に対する理学療法			
29	まとめ			
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ理学療法学		理学療法科/2年	2021/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	高原 美恵 (実務経験有)
授業の概要				
スポーツ障害に対する評価、治療アプローチ方法を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ障害に対する評価、治療方法を理解する				
回	テーマ	内容		
1	ハムストリングス肉離れ、腸脛靭帯炎	ハムストリングス肉離れ、腸脛靭帯炎の受傷機転、疾患、評価、治療		
2	下腿三頭筋肉離れ、アキレス腱炎	下腿三頭筋肉離れ、アキレス腱炎の受傷機転、疾患、評価、治療		
3	足関節捻挫、有痛性外脛骨、Jonse骨折	足関節捻挫、有痛性外脛骨、Jonse骨折の受傷機転、疾患、評価、治療		
4	ジャンパー膝	ジャンパー膝の受傷機転、疾患、評価、治療		
5	半月板損傷	半月板損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
6	前十字靭帯損傷	前十字靭帯損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
7	股関節唇損傷	股関節唇損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
8	臼蓋形成不全	臼蓋形成不全の受傷機転、疾患、評価、治療		
9	腰椎分離症、腰椎ヘルニア	腰椎分離症、腰椎ヘルニアの受傷機転、疾患、評価、治療		
10	肩峰下インピンジメント症候群 投球障害肩	肩峰下インピンジメント症候群、投球障害肩の受傷機転、疾患、評価、治療		
11	肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼	肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼の受傷機転、疾患、評価、治療		
12	腱板損傷、腱板断裂	腱板損傷、腱板断裂の受傷機転、疾患、評価、治療		
13	手関節障害	手関節障害の受傷機転、疾患、評価、治療		
14	テニス肘 (上腕骨外側上顆)	テニス肘 (上腕骨外側上顆) の受傷機転、疾患、評価、治療		
15	野球肘、 上腕骨小頭障害	野球肘、上腕骨小頭障害の受傷機転、疾患、評価、治療		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
スポーツ理学療法学		実習・実技評価 確認テスト 期末試験	30.0% 20.0% 50.0%	実技評価ができない場合はレポートで30%評価とする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療計画法		理学療法科/3年	2021/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	水口且久(実務経験有)
授業の概要				
模擬症例を使用し、理学療法の評価から治療プログラム作成、レポート作成までの流れを学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
模擬症例に対し、情報収集から始まる一連の理学療法評価の結果を解釈し、問題点をICFで列挙、そこから目標を設定し、それを達成するための治療プログラム立案を行う。				
回	テーマ	内容		
1	症例レポート	レポートの流れと書き方		
2		レポート作成①		
3		レポート作成②		
4	統合と解釈について	統合と解釈について レポート内容の見直し、分析		
5	臨床的思考(ワーク)	ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース例題 ～		
6		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース① ～ グループワークを交えて		
7		グループごとに発表、解説		
8		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース② ～ グループワークを交えて		
9		グループごとに発表、解説		
10		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース③ ～ グループワークを交えて		
11		グループごとに発表、解説		
12		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース④ ～ グループワークを交えて		
13		グループごとに発表、解説		
14		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース⑤ ～ グループワークを交えて		
15		グループごとに発表、解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療計画法		理学療法科/2年	2021/通年	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本(実務経験有)
授業の概要				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
回	テーマ	内容		
1	症例レポート	レポートの流れと書き方		
2		レポート作成①		
3		レポート作成②		
4	統合と解釈について	統合と解釈について レポート内容の見直し、分析		
5	臨床的思考(ワーク)	ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース例題 ～		
6		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース① ～ グループワークを交えて		
7		グループごとに発表、解説		
8		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース② ～ グループワークを交えて		
9		グループごとに発表、解説		
10		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース③ ～ グループワークを交えて		
11		グループごとに発表、解説		
12		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース④ ～ グループワークを交えて		
13		グループごとに発表、解説		
14		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース⑤ ～ グループワークを交えて		
15		グループごとに発表、解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論Ⅰ（総論）		理学療法科/1年	2021/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	秋元俊子（実務経験有）
授業の概要				
リハビリテーションの理念を基に、地域リハビリテーションについての理解を深め、理学療法の役割や考えかた、方法を学ぶ。地域におけるサービス（通所、訪問、健康教室など）についても学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 地域リハビリテーションの概念、理学療法士と他職種の連携の重要性を理解する。 2. 地域リハ、在宅、訪問、通所など、病院以外での理学療法士の関わりについて理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	地域リハビリテーションの概念	地域リハビリテーションの定義、活動指針		
2	要介護認定とケアマネジメント	要介護・要支援とサービス		
3	地域リハをめぐる諸制度	地域リハをめぐる諸制度		
4	医療・保健・福祉の連携の意義と方法	医療・保健・福祉の連携の意義と方法		
5	地域包括支援センターの役割	地域包括ケアシステムと包括支援センター		
6	施設、通所リハビリの意義と方法	施設、通所リハビリの意義と方法		
7	訪問リハの意義と方法	訪問リハの意義と方法		
8	精神領域における地域リハサービス	精神領域における地域リハサービス		
9	発達障害領域における地域リハサービス	発達障害領域における地域リハサービス		
10	障害者の就労支援と理学療法	障害者の就労支援と理学療法		
11	介護予防における理学療法士の役割	介護予防における理学療法士の役割		
12	地域理学療法の目的、評価、目標、計画	地域理学療法の目的、評価、目標、計画		
13	地域理学療法における指導の考え方	地域理学療法における指導の考え方		
14	国際保健とCBR	CBRの定義、目標、今後の展開		
15	地域における社会資源			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2021/前期	講義（一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	山本・秋元（実務経験有）
授業の概要				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
回	テーマ	内容		
1	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて①	見学実習の発表および検討会①（急性期病院）		
2	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて②	見学実習の発表および検討会②（回復期病院）		
3	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて③	見学実習の発表および検討会③（リハ専門病院）		
4	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて④	見学実習の発表および検討会④（介護医療院）		
5	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて⑤	見学実習の発表および検討会⑤（老人保健施設）		
6	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて⑥	見学実習の発表および検討会⑥（通所サービス）		
7	2年次の臨床見学実習について（病院・老健）①			
8	2年次の臨床見学実習について（病院・老健）②			
9	地域理学療法学の総論①			
10	地域理学療法学の総論②			
11	地域支援事業について①			
12	地域支援事業について②			
13	フレイル・サルコペニアについて			
14	介護予防・健康体操について①			
15	介護予防・健康体操について②			

回	テ ー マ	内 容		
16	他職種連携・担当者会議について①			
17	他職種連携・担当者会議について②			
18	前半のまとめ			
19	介護保険制度について①			
20	介護保険制度について②			
21	介護保険制度について③			
22	介護保険制度について④			
23	介護保険サービスについて①			
24	介護保険サービスについて②			
25	介護保険サービスについて③			
26	介護保険サービスについて④			
27	地域包括ケア病棟について①			
28	地域包括ケア病棟について②			
29	地域包括ケア病棟について③			
30	後半のまとめ			
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	地域理学療法学 監修 奈良勲	期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論		理学療法科/4年	2021/通年	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	秋元、杉本(実務経験有)
授業の概要				
本講義では、地域リハビリテーションの目標と地域での役割を理解し、地域在住障がい者の生活特性と問題点を整理することで地域理学療法法の指導・援助・技術が説明できるようになることを目指す。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
地域社会(在宅)における理学療法法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	介護保険について			
2	介護認定について			
3	介護認定審査会の模擬審査体験			
4	介護保険サービスについて			
5	入所施設サービスと理学療法			
6	通所系サービスと訪問サービス			
7	介護保険における福祉用具貸与と購入			
8	地域包括ケアシステム			
9	地域連携			
10	地域包括ケアの国家試験問題			
11	「あなたのまわりの地域リハビリテーション」			
12	地域リハビリテーションのリスクマネジメント			
13	地域における介護予防			
14	住宅改修、費用			
15	理学療法士による健康増進活動の展望			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』奈良勲 監修 医学書院. 『地域リハビリテーション学テキスト』細田多穂 監 南江堂.		筆記試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習 I		理学療法科/1年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	中・秋元・高原・山本(実務経験有)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。 見学を通して以下のことを学習同期を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。 ③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における理学療法部門の位置づけを理解する。⑤理学療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内 容		
1				
2				
3		令和3年3月1日～3月31日の間に、1週間(40時間)実施。		
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ		理学療法科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	20回	1単位(40時間)	必須	秋元・中・高原・山本(実務経験有)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。 見学を通して以下のことを学習同期を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。 ③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における理学療法部門の位置づけを理解する。⑤理学療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内容		
		令和3年9月1日～9月30日の間に、1週間(40時間)実施。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習 I		理学療法科/3年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		4単位(180時間)	必須	山本、中、秋元、高原(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として、老人保健施設又は病院(現場)に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得をめざす。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で理学療法評価プロセスと基本的評価技術を系統的に経験し、理学療法評価一連の過程を理解・取得する。対象者にあった理学療法評価が行え、障害像の把握・問題点の抽出・目標設定が行えることを目標とする。また、医療従事者としての心構えや自覚を高める。				
回	テーマ	内容		
1		2021年10月18日～11月19日内で180時間の実習を実施		
2				
3				
4		(中略)		
5				
90				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	現場での実習、提出されたデイリー、ケースノート、学校での発表により総合的に判断する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		理学療法科/3年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		7単位(315時間)	必須	山本、中、秋元、高原(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として病院に赴き、臨床場面を知り、臨床実習Ⅰで習得した基本的評価技術や理論がどのように実践でしようされているかを学ぶ。 また、治療の知識・技術がどのように行われているのかを臨床現場を通じて知る。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰで習得した理学療法の基本的評価技術や理論を対象者に応用することができ、問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。 また、自己の治療計画を実践することで治療技術を学び、専門職としての知識・技術の習得および自己研磨することを目標とする。				
回	テーマ	内容		
1		2022年1月11日～3月7日の内315時間の実習		
2				
3				
4		(中略)		
5				
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	実習、デイリー、 ケースノート、学 校での発表により 総合定期的に成績を 判断する。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅲ		理学療法科/4年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	158回	7単位(315時間)	必須	杉本 和彦(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術や理論を対象者に応用することができ、自己の考えをもって問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。また、実習指導者の指導の下、治療・指導を実施し、その効果判定を行い、治療の変更などが行えることを目標とする。				
回	テーマ	内容		
1	令和3年5月10日～8月31日のうち315時間			
2				
3				
4				
5				
6				
7		(中略)		
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	315時間の実習時間を設ける(7単位)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法手技論		理学療法科/3年	2021/前期	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	水口 且久(実務経験有)
授業の概要				
理学療法の一連の流れとは情報収集から始まり、治療の再考までに至る 理学療法手技論では1人1人の症例について、理学療法の一連の流れを確認し、その中でも特に必要とされた理学療法手技について重点をおいて学習を進める 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の一連の流れを知る ・理学療法の一連の流れの中で必要とされる知識・技術を知る ・理学療法の一連の流れの中で必要とされる知識・技術の基礎を習得できる 				
回	テーマ	内容		
1	総論	理学療法の一連の流れ		
2	症例検討	股関節唇損傷 股関節痛の評価、梨状筋検査・治療		
3	症例検討	大腿骨転子部骨折(PNFA) 荷重量の評価、荷重痛、中殿筋の評価		
4	症例検討	大腿骨転子部骨折(髄内釘) 股・膝関節可動域評価・治療		
5	症例検討	変形性股関節症(THA) 脱臼予防動作		
6	症例検討	右膝化膿性関節炎、慢性腎不全 筋力低下と筋力トレーニング		
7	症例検討	変形性膝関節症(TKA) 筋力低下と筋力トレーニング		
8	症例検討	膝蓋骨横骨折 膝関節可動域評価・治療		
9	症例検討	左放線冠梗塞 長下肢装具での歩行練習		
10	症例検討	視床出血 歩行評価・治療		
11	症例検討	アテローム血栓性脳梗塞 片麻痺の回復過程におけるリスク管理		
12	症例検討	頚椎症性脊髄症 筋協調性の評価・治療		
13	症例検討	肩関節周囲炎 肩関節可動域評価・治療		
14	症例検討	脊髄小脳変性症 小脳失調の評価・治療		
15	症例検討	第2腰椎圧迫骨折 体幹機能の評価・治療		

回	テ ー マ	内 容		
16	症例検討	第12胸椎圧迫骨折 日常生活動作指導		
17	症例検討	亜急性連合性脊髄変性症 起居動作評価・治療		
18	症例検討	大腿骨頭部骨折（人工骨頭置換術） 脱臼予防指導		
19	症例検討	変形性膝関節症（高位脛骨骨切り術HTO） 膝関節可動域評価・治療		
20	症例検討	変形性膝関節症（TKA） 歩行評価・治療		
21	症例検討	膝内側半月板損傷		
22	症例検討	脛骨天蓋骨折 免荷歩行		
23	症例検討	オスグッド 大腿四頭筋機能評価・治療		
24	症例検討	脛骨後果骨折		
25	症例検討	腰椎分離症 体幹機能評価・治療、腸腰筋機能評価・治療		
26	症例検討	ラクナ梗塞 歩行評価・治療		
27	症例検討	心原性脳塞栓症 基本的動作評価・治療		
28	症例検討	視床出血 歩行評価・治療		
29	症例検討	肩腱板断裂 肩関節可動域評価・治療		
30	症例検討	腰痛症 腰部痛評価・治療		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考図書 適宜配布		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	<small> 各科目ごとにマイリポートを作成し、次の日の講義までに提出すること（欠席・欠席を含む場合は次の定休日にマイリポート提出義務あり） 評（100点）：授業内容についてまとまっており、独自の考察を明確にあげ、論拠に盛り込んでいる 優（80点）：授業内容についてまとまっており、自分の考察に的確にあげ、取り込んでいる 良（70点）：授業内容についてまとまっており、自分の考察をあげ、取り込んでいる 可（60点）：授業内容についてまとまっている 不詳（50点もしくは30点）：授業内容のまとまりが不十分もしくは講義内に提出できない </small>

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
セミナー		理学療法科/4年	2021/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	46回	3単位(90時間)	必須	杉本・秋元、高原、中、山本 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習の報告発表・症例検討 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
臨床実習の報告発表・症例検討				
回	テーマ	内容		
1		臨床実習の報告発表・症例検討		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10		(中略)		
45				
46				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		発表	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
総合演習Ⅲ		理学療法科/3年	2021/通年	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	杉本 和彦(実務経験有)
授業の概要				
<p>動作分析 検査測定の実技 代表的疾患について受傷機転～評価項目までの一連で検討していき、記録用紙を作成していく。これをもとにできる限りスムーズになるよう評価手順も考えたうえで、実践していく。 OSCE評価に向けて各種知識・技術を学習し、実践する 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>基本動作を構成する要素について、運動学的に説明することができる。 基本動作の分析から、問題点を考察することができる。 問題点を明らかにするための検査測定手技を正しく選択し、実施することができる。 障害像をイメージし、評価を実践できる。 OSCE評価を受けるための知識・技術を獲得することができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	評価概論1			
2	評価概論2			
3	動作分析;寝返り①			
4	動作分析;寝返り②			
5	動作分析;寝返り③			
6	動作分析;起き上がり①			
7	動作分析;起き上がり②			
8	動作分析;起き上がり③			
9	動作分析;立ち上がり①			
10	動作分析;立ち上がり②			
11	歩行概論1			
12	歩行概論2			
13	動作分析;歩行①			
14	動作分析;歩行②			
15	動作分析;歩行③			

回	テーマ	内 容		
16	検査・測定実技の復習			
17	検査・測定実技の復習			
18	検査・測定実技の復習			
19	検査・測定実技の復習			
20	検査・測定実技の復習			
21	検査・測定実技の復習			
22	検査・測定実技の復習			
23	症例検討①	グループワーク（受傷機転、病態、術式、注意点、評価項目、評価目的）		
24		グループワーク（記録用紙作成）		
25		実践→修正→実践（記録用紙も修正）		
26	症例検討①	グループワーク（受傷機転、病態、術式、注意点、評価項目、評価目的）		
27		グループワーク（記録用紙作成）		
28		実践→修正→実践（記録用紙も修正）		
29	症例検討①	グループワーク（受傷機転、病態、術式、注意点、評価項目、評価目的）		
30		実践→修正→実践		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	